

【田原市博物館 テーマ展】
文人画家が描く水

令和4年10月8日(土)
～11月27日(日)

展示室
特別展示室

渡辺華山をはじめ、文人画家が描く山水画などをご堪能ください。

指定	作者	作品名	制作年	材質	員数	法量(cm)	備考
重文	わたなべかざん 渡辺華山	せんざんぼんすいず 千山万水図	天保12(1841)年	絹本着色	1幅	147.0×71.0	
	渡辺華山	こうしかんぼくず 高士観瀑図	天保9(1838)年	絹本着色	1幅	126.0×43.5	
	渡辺華山	じゆいんひょうず 樹陰避暑図	文政年間	紙本淡彩	2幅	各119.0×52.7	
	たにぶんちやう 谷文晁	りはくかんぼくず 李白観瀑図	文化年間	紙本墨画	1幅	176.4×86.4	高林コレクション
	谷文晁	せんざんぼんすいず 千山万水図	文化4(1807)年	紙本着色	1幅	136.0×46.9	柴野栗山賛 高林コレクション
	谷文晁	しゅうざんこていず 秋山孤亭図	天明年間	紙本淡彩	1幅	133.7×28.9	高林コレクション
	谷文晁	かけいざんすいず 夏景山水図	寛政9(1797)年	紙本墨画	1幅	29.2×53.2	高林コレクション
	いのうえちくいつ 井上竹逸	さんすいず 山水図	明治時代	紙本淡彩	1幅	140.5×49.1	
	さくらませいがい 桜間青厓	かんこうどくちやうず 寒江独釣図	弘化2(1845)年	紙本淡彩	1幅	124.6×28.9	
	のぐちゆうこく 野口幽谷	けいじょうすいせんか 溪上水仙花	明治26(1893)年	絹本着色	1幅	148.6×55.3	
	しらいえんがん 白井煙崑	しゅうけいざんすいず 秋景山水図	昭和13(1938)年	絹本着色	1幅	146.2×42.5	
	まつばやしけいげつ 松林桂月	しききんすい 四季山水	昭和11(1936)年	絹本墨画淡彩	4幅	各163.4×51.1	
	谷文晁	にほんめいざんずえ 日本名山図絵	文化9(1812)年	版本	3冊	26.0×18.6	
	井上竹逸	ぼんりちやうこうずかん 万里長江図巻	明治11(1878)年	紙本淡彩	1巻	20.3×110.4	
	かぶらざかこく 鍋木華国	つばきちんざんひつさんかいきしやうずもほん 椿椿山筆山海奇賞図模本	明治29(1896)年	紙本淡彩	3巻のうち1巻		
	鍋木華国	わたなべかざんひつししゅうしんけいずもほん 渡辺華山筆四州真景図模本	明治29(1896)年	紙本淡彩	3巻のうち1巻		

海から広がる渥美半島展

重美	渡辺華山	いぎよず 異魚図	天保10(1840)年	紙本墨画淡彩	1幅	37.5×67.2	個人蔵
	渡辺華山	ゆうきよきふんかん 幽居記聞巻	天保10(1840)年	紙本墨書	1巻	24.0×28.4	個人蔵

重文＝重要文化財 重美＝重要美術品 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

< 作者紹介 >

わたなべかざん
渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

田原藩家老として活躍しました。はじめ平山文鏡ひらやまぶんきやうに師事し、白川芝山しらかわしざん、金子金陵かねこきんりやう、谷文晁たにぶんちやうらに絵を習いました。实景に基づかない山水画を批判し、弟子への手紙くわそに「山水は空疎の極みなり」と書いています。このため、現在残っている華山の山水画は少なく貴重です。

たにぶんちやう
谷文晁 宝暦13(1763)年～天保11(1840)年

田安家家臣で詩人でもあった谷麓谷たにろっこくの子として江戸に生まれました。はじめ加藤文麗かとうぶんれい、渡辺玄対わたなべげんたいに絵を学びました。寛政4(1792)年、田安家出身の白河藩主松平定信まつひらさだのぶの近習しゆうこじしゆとなり、『集古十種へんざん』などを編纂しました。当時の画壇の重鎮がだんとして活躍し、渡辺華山をはじめ多くの弟子を輩出しました。

いのうえちくいつ
井上竹逸 文化11(1814)年～明治19(1886)年

幕臣梶川氏かじかわに仕える武士の家に生まれました。竹逸は17歳から華山の家を出入りし、弟子となります。天保10(1839)年～12(1841)年にかけて長崎奉行田口喜行たぐちよしきの家臣として長崎に滞在した際に、砲術をたかしましゆうはん高島秋帆たかしましゆうはんに学びました。明治維新後、主君であった梶川氏の貧窮の話を聞き、愛蔵する琴をお金に替えて梶川氏に贈りました。「万里長江図巻」(当館蔵)など山水画を得意としていました。

まつばやしけいげつ
松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、椿椿山のぐちゆうこくを師とする野口幽谷のぐちゆうこくの弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮じゆうちんと言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる帝室技芸員ていつぎげいいんに任命され、昭和33(1958)年には文化勲章ぶんかくんしやうを受けました。

のぐちゆうこく
野口幽谷 文政8(1825)年～明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎とうりやうの次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山のぐちゆうこくに師事し、花鳥画を学びました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会ほんこくはくらんかいや明治10(1877)年の第1回内国勸業博覧会ないこくかんぎやうはくらんかいに出品し、画技がぎを認められました。弟子に椿山の孫である椿二山つばきにざんや松林桂月まつばやしけいげつなどがいます。

さくらませいがい
桜間青厓 天明6(1786)年～嘉永4(1851)年

岡崎藩主本多家ほんだに仕えた岡崎藩士です。渡辺華山・椿椿山と交友していました。青厓は花鳥画や山水画を得意とし、「山水は我青厓ぼんしやに及ばず」と華山に言われるほどでした。蚕社ごくの獄で華山が捕らえられた際に、華山救済に尽力した一人です。

しらいえんがん
白井烟島 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町しらいに生まれました。16歳より従兄の白井永川えいせんに南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入选ていてん以後、帝展しんぶんてんや新文展に出品し、戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山けんしやう顕彰の功績が認められ、田原町町政たはらちやうちやうせい功労者として表彰こうろうしやされました。

かぶらぎかこく
鏑木華国 明治元(1868)年～昭和17(1942)年

田原藩士鏑木家の長男として生まれました。渡辺華山の次男である渡辺小華わたなべしやうかに絵を学びます。渡辺華山けんしやうの顕彰けんしやうに尽力し、明治43(1910)年、華山会かざんかいが創立されると常務理事に就きました。また田原城二にの丸櫓跡まるやぐらあとに華山文庫かざんぶんこを建設しました。